

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

taku

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991800093		
法人名	社会福祉法人 寿ノ家		
事業所名	寿ノ家グループホームみさか		
所在地	山梨県笛吹市御坂町下野原839-1		
自己評価作成日	令和元年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年12月19日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は「ゆっくりと一緒に生活を共にするケア」を年間テーマに「①生きがいを持って生活できる支援に取り組む②食事サービスの充実③専門職としての自覚を持ち、チームケアの向上を図る④一人ひとりの健康管理」以上の4項目を重点課題に取り組んでいる。この4項目を基本として、全職員が個々で目標設定をして認知症ケア・アセスメント能力の向上に取り組んでいる。
 地域との繋がりに関しても、毎月実施している「サロン縁」には、多くの地域住民の方々にご参加頂き、「地域と施設の交流の場」「地域福祉の向上」「地域住民と入居者の生きがい作り」としての役割を果たすことが出来ている。加えて、事業所全体としては「認知症カフェ」等を通じて、地域における認知症の啓発活動にも取り組むことができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート2階建ての2階が2ユニットのグループホームになっている。1階には小規模多機能型居宅介護が併設している。事業所は小高い場所にあり山並みや市街地が見渡せ、周辺には住宅地、果樹園、商店があり恵まれた環境にある。また、中央自動車道のICも近くあり遠方から来る親族も便利である。毎月、サロンを開催し地域の住民が参加し利用者との交流や地域住民の拠り所ともなっている。また、認知症カフェをオープンして地域交流室を地域に開放するなど地域密着型としての機能を果たしている。毎週行われている「いきいき体操」や法人全体での行事に参加する機会が多くあり、事業所案内で掲げている「1日1日を大切に楽しく暮らす」を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **寿ノ家グループホームみさか**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（小春（こはる））	ユニット名（ひより）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月に全職員を対象にした理念研修を実施。法人理事長より理念の重要性・意味するところの説明を受けている。加えて、理念を達成するための具体的な事業計画を基に、全職員が上期・下期に目標を立て、実践に取り組み、各期終了時には実践の評価面接を行っている。	4月に全職員を対象にした理念研修を実施。法人理事長より理念の重要性・意味するところの説明を受けている。加えて、理念を達成するための具体的な事業計画を基に、全職員が上期・下期に目標を立て、実践に取り組み、各期終了時には実践の評価面接を行っている。	年度初めに法人内の全職員を対象に理念研修を実施し、理念についての理解を深めている。事業所では、法人の理念「心をこめてひとりひとりを大切に」に繋がるような年度目標をユニット毎に決めて、事務所内に掲示している。毎月のミーティングの中でも日々を振り返り、目標がケアに反映されているか話し合い実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	月1回サロン「縁」を開催して地域の方との交流を図っている。加えて週に1回、施設にある地域交流スペースで「いきいき100歳体操」を実施。（住民と利用者が参加）地域住民を招いての各種イベント（流しそうめん）も実施している。また、地区の祭りにも参加している。	月1回サロン「縁」を開催して地域の方との交流を図っている。加えて週に1回、施設にある地域交流スペースで「いきいき100歳体操」を実施。（住民と利用者が参加）地域住民を招いての各種イベント（流しそうめん）も実施している。また、地区の祭りにも参加している。	毎月開催されるサロンには、地域の一人暮らしの高齢者や地域の住民が参加し利用者との交流を図っている。また、認知症カフェもオープンして介護従事者等に相談しながら語り合える場所として地域交流室を住民に開放している。歌や踊り、読み聞かせ、将棋のボランティアの訪問も月に数回あり利用者の楽しみとなっている。夏休みの期間中に事業所で開催するイベントには、地域の子供たちが多数参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回「認知症カフェ」を開催。地域住民や認知症の当事者の参加がある。「認知症予防」「成年後見制度」等をテーマに認知症に関する学びを深めた後、お茶を飲みながらのフリートークで個々の悩みの共有やこれまでの経験などの共有を図っている。	月1回「認知症カフェ」を開催。地域住民や認知症の当事者の参加がある。「認知症予防」「成年後見制度」等をテーマに認知症に関する学びを深めた後、お茶を飲みながらのフリートークで個々の悩みの共有やこれまでの経験などの共有を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で開催。入居者概況や職員教育関連、イベント報告を行い、外部委員からの意見をサービスへ展開している。利用者のニーズ（例えば将棋をしたい）を報告することで、地域住民からのボランティアを受け入れるなどの連携を図ることができている。	2ヶ月に1回の頻度で開催。入居者概況や職員教育関連、イベント報告を行い、外部委員からの意見をサービスへ展開している。利用者のニーズ（例えば将棋をしたい）を報告することで、地域住民からのボランティアを受け入れるなどの連携を図ることができている。	2か月に1回、会議を開催している。事業所からの報告とともに参加者から質問、意見、要望を受けている。質問のあった利用料金や他事業所の状況について各担当者が説明している。将棋ボランティアの受け入れや参加者から認知症について理解を深めたいとの要望があり、会場を確保し認知症講座を開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市長寿介護課と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市長寿介護課・地域包括支援センター職員が毎回の運営推進会議に参加している。入居申込者の確保状況等事業運営に関する各種相談に加えて、利用者ニーズの報告に対するアドバイスなど連携強化に努めている。	市長寿介護課・地域包括支援センター職員が毎回の運営推進会議に参加している。入居申込者の確保状況等事業運営に関する各種相談に加えて、利用者ニーズの報告に対するアドバイスなど連携強化に努めている。	運営推進会議をとおして事業所の実情や取り組みを伝えている。利用者家族の対応について、難しい事例で相談しアドバイスを受けた。市から情報を得て、いきいきサポーター（65歳以上の高齢者）制度を活用したり、地域包括職員のサロンへの参加や市主催の研修会出席等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する委員会を中心とした勉強会を実施。毎月のミーティングにおいてスピーチロックに関する振り返りと1か月間の目標を考え実践に取り組み、翌月のミーティングにて評価を行っている。	身体拘束に関する委員会を中心とした勉強会を実施。毎月のミーティングにおいてスピーチロックに関する振り返りと1か月間の目標を考え実践に取り組み、翌月のミーティングにて評価を行っている。	法人全体の身体拘束委員会があり、ユニットリーダーが参加し勉強会を行っている。スピーチロックについてのアンケートを実施し、委員会で集計した資料を職員全員で確認している。月目標があり、事業所での取り組みを話し合っている。職員間で共通の認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内の虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。身体拘束同様に意識を持ち取り組んでいる。	法人に委員会があり、毎月委員会が行われている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルに基づき職員への意識づけを行っている。また、法人の勉強会が開催される。身体拘束同様に意識を持ち取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それを活用できるように支援している	管理者は「高齢者の想いに寄り添うケアを推進するための手引き」の理解を深めると同時に、成年後見制度を活用している入居者の事例を基に、権利擁護に関する知識・留意事項などを都度伝達している。	管理者は「高齢者の想いに寄り添うケアを推進するための手引き」の理解を深めると同時に、成年後見制度を活用している入居者の事例を基に、権利擁護に関する知識・留意事項などを都度伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本契約前の面談時に契約・重説の内容（解約を含め）を説明し不安・疑問点の解消に努め、本契約を行っている。また、報酬改定等に伴う料金改定については、改定内容及び個々の負担増減を示した資料を提示し理解を得るよう努めている。	本契約前の面談時に契約・重説の内容（解約を含め）を説明し不安・疑問点の解消に努め、本契約を行っている。また、報酬改定等に伴う料金改定については、改定内容及び個々の負担増減を示した資料を提示し理解を得るよう努めている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **寿ノ家グループホームみさか**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (小春 (こはる))	ユニット名 (ひより)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族参加型のカンファレンス・年に1回の顧客満足度調査を行いご意見等に対する具体的な回答 (対応策) をご家族等に提示している。また、相談・苦情の窓口の周知に努めている。また、ご家族面会時には積極的にコミュニケーションを図るよう努めている。	定期的な家族参加型のカンファレンス・年に1回の顧客満足度調査を行いご意見等に対する具体的な回答 (対応策) をご家族等に提示している。また、相談・苦情の窓口の周知に努めている。また、ご家族面会時には積極的にコミュニケーションを図るよう努めている。	年1回、家族にアンケート用紙を郵送し意見等を聞いている。出された意見についての対応を事業所内に掲示するとともに家族にも郵送している。家族等の面会時には、声を掛けて何でも言ってもらえるように心がけている。利用者について気づいたことを申し送りノートに書いていつでも家族に伝えられるようにしている。家族から出された意見等は検討して反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上期と下期に全職員との面接を行い意見聴取を行っている。また、毎月のミーティングにおける提案、年に1回の「私の希望と意見」にて代表者・管理者へ意見を提案する機会を設けており、その結果を書面等で職員に提示している	上期と下半期に全職員との面接を行い意見聴取を行っている。また、毎月のミーティングにおける提案、年に1回の「私の希望と意見」にて代表者・管理者へ意見を提案する機会を設けており、その結果を書面等で職員に提示している	年2回、個人面接を実施している。職員はユニットリーダーと面接し、ユニットリーダーは職員の面接を受けて管理者と行い、代表者に繋げている。また、「私の希望と意見」では個々の意見、要望を聞いている。管理者はミーティングや職員との関りの中で意見、要望を聞くよう心がけ、調理専門職員の補充や職員のチームワーク等について検討し業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が上期・下期の各期で個人目標を立て・実践。管理者との評価面接を行っている。達成状況等は賞与に反映されている。また、有給は1時間単位で取得できるようになっている。	全職員が上期・下期の各期で個人目標を立て・実践。管理者との評価面接を行っている。達成状況等は賞与に反映されている。また、有給は1時間単位で取得できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の学習委員会・各種委員会が主催する勉強会 (テーマ別・ステップアップ) を毎月開催している。欠席者に対しては資料提示等のフォローを行っている。新人教育においては専用の評価表を用いて業務習得状況の把握に努めている。	法人の学習委員会・各種委員会が主催する勉強会 (テーマ別・ステップアップ) を毎月開催している。欠席者に対しては資料提示等のフォローを行っている。新人教育においては専用の評価表を用いて業務習得状況の把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入会し山梨県支部が主催する研修会に参加している。また、市内の介護保険事業者が集まる連絡会にも可能な会議に参加し、情報交換・共有に努めている。	GH協会に入会し山梨県支部が主催する研修会に参加している。また、市内の介護保険事業者が集まる連絡会にも可能な会議に参加し、情報交換・共有に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には可能な限り本人に施設見学や短時間であっても施設で過ごすような機会を設けている。入居当初においては、本人の状況に考慮しながら積極的にコミュニケーションを図り、生活リズム・必要なケア・本人の声などに重点的に記録に残している。	入居前には可能な限り本人に施設見学や短時間であっても施設で過ごすような機会を設けている。入居当初においては、本人の状況に考慮しながら積極的にコミュニケーションを図り、生活リズム・必要なケア・本人の声などに重点的に記録に残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族面談時に施設の各種サービスについて説明し、不安・疑問点の把握と解決を図っている。また、本人が受けるサービスへの要望等を把握し入居時の暫定プランに反映させサービス提供に努めている。	入居前の家族面談時に施設の各種サービスについて説明し、不安・疑問点の把握と解決を図っている。また、本人が受けるサービスへの要望等を把握し入居時の暫定プランに反映させサービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には暫定プランを作成し、日々の実践状況を確認している。支援を提供する中での気づきなどについては、ケース記録 (必要に応じてプランの修正) に反映させ職員によるサービスの差が発生しないよう努めている。	入居時には暫定プランを作成し、日々の実践状況を確認している。支援を提供する中での気づきなどについては、ケース記録 (必要に応じてプランの修正) に反映させ職員によるサービスの差が発生しないよう努めている。		
18		○本人と共に過ごす支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り入居者とともに過ごす時間を設けるよう心掛け、職員が「してもらいたいこと」ではなく、入居者個々が「出来ること」を継続することで、「役割の喪失」を防ぐための取り組みを行っている。	出来る限り入居者とともに過ごす時間を設けるよう心掛け、職員が「してもらいたいこと」ではなく、入居者個々が「出来ること」を継続することで、「役割の喪失」を防ぐための取り組みを行っている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家グループホームみさか

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(ひより)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来所された場合は、日頃の様子伝達を積極的に行うことで、入居者の現状を家族に把握してもらい、家族が「出来ること」を共に考えることに努めている。家族との外出・外泊も積極的に推奨している。	ご家族が面会に来所された場合は、日頃の様子伝達を積極的に行うことで、入居者の現状を家族に把握してもらい、家族が「出来ること」を共に考えることに努めている。家族との外出・外泊も積極的に推奨している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋・よく通っていた飲食店など入居者個々の生活の継続が図れるよう外出支援を行っている。また、施設で実施しているサロンにおいても地域の馴染みの住民が来るため、関係性を継続する場を設けている。	床屋・よく通っていた飲食店など入居者個々の生活の継続が図れるよう外出支援を行っている。また、施設で実施しているサロンにおいても地域の馴染みの住民が来るため、関係性を継続する場を設けている。	病院の受信後、家族と馴染みのあった定食屋さんに寄ってくる人や以前から利用していた理・美容院に行っている利用者もいる。また、お店に行けない利用者の元に馴染みの美容店の先生が来てくれている。外泊や家を見に行く、携帯電話で家族、親戚と連絡を取るなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにおける座席配置、家事等の作業において、入居者同士の関係性を考慮した対応を行っている。	リビングにおける座席配置、家事等の作業において、入居者同士の関係性を考慮した対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退居後に担当する居宅ケアマネに情報提供を行うなど、サービス提供側が変わっても、これまでの意向等が継続できるよう家族を踏まえながら連携を図っている。	施設退居後に担当する居宅ケアマネに情報提供を行うなど、サービス提供側が変わっても、これまでの意向等が継続できるよう家族を踏まえながら連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉・意向については、ケース記録に可能な限り残している。ユニットミーティングや日々の申し送りにて希望・要望への対応方法を検討しており、施設スタッフのみでは対応困難な場合は、家族・地域住民に協力を依頼している。	本人の言葉・意向については、ケース記録に可能な限り残している。ユニットミーティングや日々の申し送りにて希望・要望への対応方法を検討しており、施設スタッフのみでは対応困難な場合は、家族・地域住民に協力を依頼している。	日々関わりの中で、利用者の発した言葉や思いをケース記録に書いて、ミーティングや申し送り時に確認して職員間で共有し対応している。意思疎通が困難な場合は、状況を説明して家族等に聞いて情報を得るようにしている。また、表情や言葉にしろなくとも、本人の日々の行動等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談時に本人・家族より情報収集を行いアセスメントシートに展開している。また、それだけでは不十分な場合が多いため、入居後においても、本人との日常会話や家族面談時にコミュニケーションを図り情報収集に努めている。	入居前面談時に本人・家族より情報収集を行いアセスメントシートに展開している。また、それだけでは不十分な場合が多いため、入居後においても、本人との日常会話や家族面談時にコミュニケーションを図り情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムやADL等が集約されているアセスメントシートを定期的に更新している。また、毎月のユニットミーティングにおいては、入居者一人一人が抱えている課題の共有と解決策の検討を行っている。	生活リズムやADL等が集約されているアセスメントシートを定期的に更新している。また、毎月のユニットミーティングにおいては、入居者一人一人が抱えている課題の共有と解決策の検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々に担当職員を定め、計画作成・担当職員・他職員(看護・リハ・他介護)にてミーティング等で随時話し合いを行い計画に反映している。また、計画作成担当においては、家族面談時に収集した意見を担当職員に伝達、必要に応じてプラン検討時に参考とできるように努めている。	入居者個々に担当職員を定め、計画作成・担当職員・他職員(看護・リハ・他介護)にてミーティング等で随時話し合いを行い計画に反映している。また、計画作成担当においては、家族面談時に収集した意見を担当職員に伝達、必要に応じてプラン検討時に参考とできるように努めている。	入居時に利用者、家族等と面談を行い、アセスメントシートに記入している。入居日までに暫定の介護計画を作成し、入居日に家族等に説明し同意をもらっている。毎月のミーティングで利用者一人ひとりについて話し合いを行い、3か月毎に見直しをしている。変更する場合は、家族等に説明し同意を得て現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者における日々の出来事、変化、言葉、家族からの話などはケース記録に記すよう努めており、加えて、出勤時に全職員が確認する連絡ノートへの記載、及び、朝夕の申し送り時に他職員と情報を共有を図っている。その積み重ねを、入居者の担当職員が毎月の計画評価等に繋げている。	入居者における日々の出来事、変化、言葉、家族からの話などをケース記録に記すよう努めており、加えて、出勤時に全職員が確認する連絡ノートへの記載、及び、朝夕の申し送り時に他職員と情報を共有を図っている。その積み重ねを、入居者の担当職員が毎月の計画評価等に繋げている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **寿ノ家グループホームみさか**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット名(小春(こはる)) 入居者や家族の言葉を職員間で共有し、実現のた めの方策を検討するよう取り組んでいる。例えば、 後見制度の活用が必要かと思われる場合の包括 や社協との連携。在宅時に通っていた美容院への 外出が困難であるため美容師に施設訪問をしてま らうなど	ユニット名(ひより) 入居者や家族の言葉を職員間で共有し、実現のた めの方策を検討するよう取り組んでいる。例えば、 後見制度の活用が必要かと思われる場合の包括 や社協との連携。在宅時に通っていた美容院への 外出が困難であるため美容師に施設訪問をしてま らうなど		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの飲食店・美容院・地域イベントへの外出支 援を行っている。加えて、事業所内に地域住民が 集まる場(例えばサロン)を設けることで、外出が困 難であっても、事業所内で地域との繋がりを感じら れる取り組みを行っている。	馴染みの飲食店・美容院・地域イベントへの外出支 援を行っている。加えて、事業所内に地域住民が 集まる場(例えばサロン)を設けることで、外出が困 難であっても、事業所内で地域との繋がりを感じら れる取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	施設の協力医療機関をかかりつけ医とする場合、 受診対応は施設職員が全て対応し、必要に応じて ご家族へ結果報告を行っている。本人やご家族の 強い希望により協力医療機関以外をかかりつけ医 とする場合であっても、家族・医療機関に随時情報 提供を行っている。	施設の協力医療機関をかかりつけ医とする場合、 受診対応は施設職員が全て対応し、必要に応じて ご家族へ結果報告を行っている。本人やご家族の 強い希望により協力医療機関以外をかかりつけ医 とする場合であっても、家族・医療機関に随時情報 提供を行っている。	本人、家族等が希望するかかりつけ医となっている。事 業所の協力病院をかかりつけ医として受診や訪問診療 を受けている。また、入居前からの病院を継続してい る利用者は家族が付き添い受診している。受信時には、 手紙を書いて家族に渡し、結果についての情報も得てい る。歯科の訪問診療や皮膚科の往診、他の専門外来に は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝 えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	週に1回、看護師により健康チェックがある。訪問 時に用いる専用の用紙を活用し、「最近の様子」 「アドバイスももらいたい点」等を記し、それも基に情 報交換を行っている。また、その用紙には看護師 の記録もあり、他職員の情報共有に活かしている。 看護職員による夜間オンコール対応あり。	週に1回、看護師により健康チェックがある。訪問 時に用いる専用の用紙を活用し、「最近の様子」 「アドバイスももらいたい点」等を記し、それも基に情 報交換を行っている。また、その用紙には看護師 の記録もあり、他職員の情報共有に活かしている。 看護職員による夜間オンコール対応あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関 係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている	入院時には病棟スタッフに対しサマリーを提出し情 報伝達に努めている。加えて、MSWと定期的に病 状の確認を電話連絡にて行うと同時に、病棟スタッ プから直接病状を確認する面談も設けてもらって いる。退院時に本人確認を行い退院後の留意点やア ドバイスをもらっている。	入院時には病棟スタッフに対しサマリーを提出し情 報伝達に努めている。加えて、MSWと定期的に病 状の確認を電話連絡にて行うと同時に、病棟スタッ プから直接病状を確認する面談も設けてもらって いる。退院時に本人確認を行い退院後の留意点やア ドバイスをもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	入居前の面談時に施設における「看取り」の考え 方を伝えている。入居契約時にその時点における本 人・家族の意向を確認している。入居後においても、 体調不良時やカンファレンス時など随時話題提起 や意向を確認し本人・家族にも終末期に向けた準 備をしてもらうよう取り組んでいる。	入居前の面談時に施設における「看取り」の考え 方を伝えている。入居契約時にその時点における本 人・家族の意向を確認している。入居後においても、 体調不良時やカンファレンス時など随時話題提起 や意向を確認し本人・家族にも終末期に向けた準 備をしてもらうよう取り組んでいる。	入居前に重度化や終末期に事業所が対応できるケアの 説明を行い、入居時に意向の確認をしている。重度化し た場合は、医師が判断し本人や家族の意向を踏まえ、 職員、看護師、法人の医師を交えて話し合いを行って いる。かかりつけ医の往診が不可能な場合には、変更を して終末期に向けた対応が出来るよう家族と確認を取り ながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、 実践力を身に付けている	学習会にて緊急時の対応について、全職員が学 べるよう体制を整備している。また、緊急時におけ る連絡手順や関係者へ適切な情報提供ができるよう にするための専用シートを作成し、迅速・正確な情 報伝達を図られるよう取り組んでいる。また、事故 発生対応に関するマニュアルが整備されている。	学習会にて緊急時の対応について、全職員が学 べるよう体制を整備している。また、緊急時におけ る連絡手順や関係者へ適切な情報提供ができるよう にするための専用シートを作成し、迅速・正確な情 報伝達を図られるよう取り組んでいる。また、事故 発生対応に関するマニュアルが整備されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に従い年に2回、火災を想定した防災訓 練(日中と夜間を想定)実施している。また、大規模 災害対策マニュアルを作成し地震に備えると同 時に、今年度においては地震を想定した訓練を実施 予定。委員会主催の勉強会も開催。地域との連携 については、災害時の地域との協定を結び一時避 難所として使用してもらう体制を整えている。	消防計画に従い年に2回、火災を想定した防災訓 練(日中と夜間を想定)実施している。また、大規模 災害対策マニュアルを作成し地震に備えると同 時に、今年度においては地震を想定した訓練を実施 予定。委員会主催の勉強会も開催。地域との連携 については、災害時の地域との協定を結び一時避 難所として使用してもらう体制を整えている。	年2回、併設している事業所と合同で火災を想定して避 難、誘導訓練を実施している。日中や夜間想定訓練も同 時に行っている。非常時のらせん階段を使用して避難し たり、火元から離れた場所への避難誘導を実施した。訓 練後には反省会があり、話し合いをしている。また、消 防計画に基づき消防署に実施報告書提出している。 災害時、地元の一時的避難所として地区と協定を結び住 民を受け入れるためのマニュアルを作っている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 寿ノ家グループホームみさか

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春(こはる))	ユニット名(ひより)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活の場において、職員間にて入居者の話を行う際は、声の大きさや個人が特定できないように配慮することを心掛けている。また、言葉掛けについては、毎月のミーティングにて検討議題に挙げ、職員個々が日々の振り返りを行うように努めている。	入居者の生活の場において、職員間にて入居者の話を行う際は、声の大きさや個人が特定できないように配慮することを心掛けている。また、言葉掛けについては、毎月のミーティングにて検討議題に挙げ、職員個々が日々の振り返りを行うように努めている。	居室への出入りやトイレ誘導、着替え等の対応に配慮している。呼称については、呼ばれたい名前を利用者、家族から聞いてケースファイルにも書き対応している。他の利用者に分からないように必要に応じて居室の番号を使ったりしている。利用者の発した言葉を否定しないで自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に選択を行ってもらう際は、「YES/NO」ではなく、複数の選択肢を提供できるように取り組んでいる。また、職員からの提案だけではなく、入居者が思いや意向を表現できるまで待つ姿勢も大切にしている。	入居者に選択を行ってもらう際は、「YES/NO」ではなく、複数の選択肢を提供できるように取り組んでいる。また、職員からの提案だけではなく、入居者が思いや意向を表現できるまで待つ姿勢も大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課ではなく、入居者個々の日課を把握できるよう職員間で情報共有して、入居者個々の生活ペースにあった対応を検討し提供している。また、何をしたいか等の意向を把握して支援している。	施設の日課ではなく、入居者個々の日課を把握できるよう職員間で情報共有して、入居者個々の生活ペースにあった対応を検討し提供している。また、何をしたいか等の意向を把握して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については、出来る限りに本人の意向を確認・自ら選んで頂くよう取り組んでいる。理美容についても本人の要望やご家族の意向を受け対応している。個人空間と共同空間での衣類選択にも配慮できるよう心掛けている。	衣類については、出来る限りに本人の意向を確認・自ら選んで頂くよう取り組んでいる。また、個々のこだわりや家族の意向を把握し、専用の化粧セットなどを用いてお化粧の手伝いを行うなど取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・おしぼりたたみ等、入居者個々の能力と意向に応じて行ってもらよう取り組んでいる。また、食後の食器拭きやおしぼり濯ぎなどは、自分の役割と認識している入居者もいるため、感謝の言葉をかけながら行ってもらっている。	盛り付け・おしぼりたたみ等、入居者個々の能力と意向に応じて行ってもらよう取り組んでいる。また、食後の食器拭きやおしぼり濯ぎなどは、自分の役割と認識している入居者もいるため、感謝の言葉をかけながら行ってもらっている。	宅配業者から献立表と食材が届き、職員が調理している。また、火曜、金曜日の夜は利用者とは相談しながらメニューを決めて食材を購入している。利用者も出来ることの手伝いを職員と一緒にしている。土曜、日曜の昼と夕食は法人から届けられている。行事食や利用者のお誕生日日には、ケーキや利用者の好きな食べ物で祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の咀嚼・嚥下状態を随時確認し、状態にあった食形態に加工して提供している。摂取量が不足する場合は補助食品の提供などで対応している。また、嗜好に配慮し、献立以外にも代替品が提供できるように準備している。	入居者個々の咀嚼・嚥下状態を随時確認し、状態にあった食形態に加工して提供している。摂取量が不足する場合は補助食品の提供などで対応している。また、嗜好に配慮し、献立以外にも代替品が提供できるように準備している。嗜好品について、家族の協力を得ながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に合わせた口腔ケアをしている	協力歯科医療機関の歯科医師・歯科衛生士からのアドバイスを職員間で周知を図り、口腔ケアを実施している。入居者個々の口腔内の状況に合わせた物品を準備し対応している。	協力歯科医療機関の歯科医師・歯科衛生士からのアドバイスを職員間で周知を図り、口腔ケアを実施している。入居者個々の口腔内の状況に合わせた物品を準備し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄状況を確認できる表を用いて個々の排泄パターンを把握して、支援のタイミングや皮膚の状況を考慮した上でのパット検討を行い実践している。また、本人の様子を随時観察し、必要なタイミングでトイレ誘導を行うなど対応している。	日々の排泄状況を確認できる表を用いて個々の排泄パターンを把握して、支援のタイミングや皮膚の状況を考慮した上でのパット検討を行い実践している。また、本人の様子を随時観察し、必要なタイミングでトイレ誘導を行うなど対応している。	排泄チェック表を使用し、時間誘導してトイレでの排泄支援を行っている。おむつを使用している利用者もなるべくトイレで排泄できるよう支援している。退院後すぐにおむつからリハビリパンツに替えたり、パットを使用している利用者に対しては、日中、午後、夜とパットの種類を替えて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しては、内服以外にも飲食物や運動でも排便を促す取り組みを行っている。下剤については、単に排便が確認されない日数のみで調整するのではなく、便の形状や量・回数などを職員間で情報共有し検討している。主治医や看護とも連携を図り必要な指示をもらっている。	便秘に対しては、内服以外にも飲食物や運動でも排便を促す取り組みを行っている。下剤については、単に排便が確認されない日数のみで調整するのではなく、便の形状や量・回数などを職員間で情報共有し検討している。主治医や看護とも連携を図り必要な指示をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴間隔の基本的ペースは設定しているが、都度、入居者の意向を確認しながら対応している。また、同姓介助など入居者個々の希望に応じて対応するスタッフの調整を行うなどの取り組みを行っている。	入浴間隔の基本的ペースは設定しているが、都度、入居者の意向を確認しながら対応している。また、同姓介助など入居者個々の希望に応じて対応するスタッフの調整を行うなどの取り組みを行っている。	週2回を基本として、午前中入浴している。土曜、日曜日に関係なく毎日入浴準備しており、利用者の希望があればいつでも入浴することはできる。また、同性介助を希望している利用者には対応をしている。個々に好みのホディーソープやシャンプー、リンス、あかすり等が用意されている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **寿ノ家グループホームみさか**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (小春 (こはる))	ユニット名 (ひより)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況及び意向を確認し、日中においても休憩時間を設けている。就寝時における居室の照明についても、入居者の意向がある場合はその通りに対応している。	個々の身体状況及び意向を確認し、日中においても休憩時間を設けている。就寝時における居室の照明についても、入居者の意向がある場合はその通りに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬情が綴られている。定期薬の変更や臨時薬が処方された場合は、共通ノートにその旨を記し、職員間での情報共有を図っている。内服変更当初は特に状態に関する記録を小まめに記入するように取り組んでいる。	個々のファイルに薬情が綴られている。定期薬の変更や臨時薬が処方された場合は、共通ノートにその旨を記し、職員間での情報共有を図っている。内服変更当初は特に状態に関する記録を小まめに記入するように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の仕事・家での役割等の生活歴を、ご本人の言葉や家族からの情報提供を得て把握し、日常的な会話で活かすように取り組んでいる。また、頻度はそれほど多くないものの、食事以外での料理作り、イベント等気分転換を図る取り組みを行っている。	本人の仕事・家での役割等の生活歴を、ご本人の言葉や家族からの情報提供を得て把握し、日常的な会話で活かすように取り組んでいる。また、頻度はそれほど多くないものの、食事以外での料理作り、イベント等気分転換を図る取り組みを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地区の祭りなど地域で行われるイベントへの参加ができるよう取り組んでいる。また、施設スタッフのみでは対応困難な場合は、家族にも協力を依頼し対応している。	地区の祭りなど地域で行われるイベントへの参加ができるよう取り組んでいる。また、施設スタッフのみでは対応困難な場合は、家族にも協力を依頼し対応している。	日常的には、事業所周辺の散歩をして近所の人や畑にきている人と接する機会がある。また、夕食後に近所のコンビニに買い物に出かける利用者もいる。法人のリフト車でお花見や紅葉、季節の花が多くみられる場所へ出かけたり、利用者からの希望に応じて行く場所もあり外出を楽しんでいる。家族とは、お葬式の出席や洋服の仕立てに行くなどで外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人でお金を所持したいと希望する入居者はいない。また、ご家族からも本人にお金を所持させてもらいたいという希望は聞かれていない。	お金を個人で所持する希望のある方は、都度、ご家族に報告を行いながら、預り金よりお渡し、買い物の際は、個人が所持するお金より払ってもらうよう支援し、残高が不足した場合には、ご本人の希望を受け、お渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい希望の時は都度対応、支援している。ハガキや手紙が来た時は一緒に確認している。	電話を掛けたい希望の時は都度対応、支援している。ハガキや手紙が来た時は一緒に確認している。個人で携帯電話を所有している方がいるため、必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や明るさについては、都度、入居者に確認しながら設定・調整している。テレビの音量や職員の声の大きさにも気をつけて居心地良く過ごせるように配慮している。	室温や明るさについては、都度、入居者に確認しながら設定・調整している。テレビの音量や職員の声の大きさにも気をつけて居心地良く過ごせるように配慮している。	2階が2ユニットの事業所で広く明るく清潔感がある。ユニット間は自由に行き来することができる。対面式のキッチンとリビングにはテーブル、いす、テレビの前にソファが置かれ食後にはくつろぎの場所になっている。高台に事業所があり山並みや遠くには街並みを見渡すことができる。季節の飾りを利用者と一緒に作って飾り、季節を感じて過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の人間関係や身体状況を勘案したテーブル・座席配置を随時検討し対応している。	入居者同士の人間関係や身体状況を勘案したテーブル・座席配置を随時検討し対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には既存居室の入居者の了承を得たうえで、居室イメージを持って頂くため、見学を行っていただいている。使い慣れた家具の持ち込みなど、随時、本人・家族・職員間で相談しながら居室を作り上げている取り組みを行っている。	入居前には既存居室の入居者の了承を得たうえで、居室イメージを持って頂くため、見学を行っていただいている。使い慣れた家具の持ち込みなど、随時、本人・家族・職員間で相談しながら居室を作り上げている取り組みを行っている。	居室は、全室フローリングの洋室になっている。部屋にはベット、洗面台、トイレ、カーテン、エアコンが備えてある。テレビやいす、テーブルを配置し写真や時計、カレンダー等日常に必要な物が持ち込まれている。ベットも自宅と同じ向きにして居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングにおける座席配置についても、居室からの動線や移動能力に応じた配置に留意している。	居室が識別しやすいように居室入り口に目印をつけるなどの対応を行っている。また、リビングにおける座席配置についても、居室からの動線や移動能力に応じた配置に留意している。		